

2015 年度夏の三者総会 議案書

2015 年度三者事務局校・神戸大学

平成 27 年 8 月 18 日

目次

1	2015 年度三者センター校 (北海道大学)	1
1.1	活動報告	1
1.1.1	援助と協賛について	1
1.1.2	交通費補助・宿泊費補助について	1
1.1.3	確認事項	1
1.2	2015 年度夏の修正予算案 [’15/8/14 現在]	2
1.3	YONUPA 運営の監督責任者の明確化	3
1.3.1	問題点の紹介	3
1.3.2	解決のための提案	3
1.3.3	補足	4
2	2015 年度三者準備校 (東北大学)	5
2.1	2015 年度夏の学校準備校修正予算案 [’15/8/12 現在]	5
2.2	レンタカーの運用	6
2.2.1	概要	6
2.2.2	経費の試算	6
2.2.3	レンタカーの必要性	6
2.2.4	利点	6
3	2015 年度三者事務局校 (神戸大学)	7
3.1	三者役職校選定 (2014 年度三者事務局校：首都大学東京)	7
3.2	三者役職校選定 (2015 年度三者事務局校：神戸大学)	7
3.3	ローテーション校の新しい選定方法	7
3.3.1	概要	7
3.3.2	従来の三者役職校の選定方法	7
3.3.3	新しい各役職校選定方法案	7
3.3.4	注意点	8
3.4	資料	9
3.5	web ページの設立	10
3.5.1	概要	10
4	2015 年度役職校代表	11
4.1	夏の学校に関するアンケート実施について	11
4.1.1	要旨	11
4.1.2	実施方法	11
4.1.3	実施者/実施時期	11

4.1.4 必要経費 11

1 2015 年度三者センター校（北海道大学）

1.1 活動報告

文責：千葉陽平（北海道大学）

1.1.1 援助と協賛について

2015 年度三者センター校は、以下の団体に経済的援助又は協賛を依頼し、その承認を得ました。

- 後援
 - － 基礎物理学研究所 450,000 円
 - － 素粒子論グループ 450,000 円
 - － 高エネルギー加速研究機構素粒子原子核研究所
「原子核研究夏の学校特集号」出版費
 - － 原子核談話会
- 協賛
 - － 核物理研究センター
 - － 理化学研究所仁科加速器研究センター
 - － 高エネルギー物理学研究者会議
 - － 日本物理学会

1.1.2 交通費補助・宿泊費補助について

原子核三者若手夏の学校では経済的余裕がない学生に対して援助を行っています。補助可能な項目は、夏の学校にて発表を行う“発表者”と発表を行わない“一般参加者”では下記のように異なります。また春の総会で決定したように、今年度からは招待した講師の方々にも旅費補助を行っています。

- 講師・発表者への補助項目
 - － 宿泊費
 - － 交通費
- 一般参加者への補助項目
 - － 交通費

夏の学校からの旅費補助は、大学からの補助や自らの財源がない学生に対して実施しているものです。夏の学校からの補助とその他の財源からの補助を同時に受けることは“犯罪”にあたりますので、注意してください。ただし、夏の学校と補助項目が異なる場合は補助可能です（夏の学校から交通費補助、大学から宿泊費補助等）。

1.1.3 確認事項

原子核三者若手夏の学校は、基礎物理学研究所共同利用研究計画の研究会です。夏の学校に触発された研究論文には基研への謝辞を記すとともに、基研への成果報告をお願いいたします。謝辞や成果報告の詳細は、以下の基研の web ページをご参照ください。「基研 HP → 共同利用 → 成果報告のお願い」

<http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/contents/kyoudou/sendreport.html>

1.2 2015 年度夏の修正予算案 [’15/8/14 現在]

文責：立石卓也（北海道大学）

2015 年度春の修正予算からさらに予算変更が生じたので、2015 年度夏の修正予算案を提案する。春の修正予算案からの変更点は、以下の 1 点である。

- 三者準備校：レンタカー代（34,836 円）の追加
詳細は、三者準備校の議題「レンタカーに関する修正予算」を参照されたし。

これを受けて、各役職校の予算案 (A)、全体の予算 (B) は以下のように変更される。

(A) 各役職校の予算案

役職名	変更前	変更後
三者センター校	1,000	1,000
三者事務局	0	0
三者準備校	394,940	429,776*1
三者名簿校	0	0
素粒子論パート事務局	0	0
素粒子論パート準備校	17,120	17,120
原子核パートセンター校	0	0
原子核パート準備校	5,000	5,000
高エネルギーパート準備校	0	0
計	418,060	452,896*2

*1, 2 今回の変更点

(B) 全体の予算案

収入	金額（万円）	支出（変更後）	金額（万円）
参加費（250 人）	100.0	学生旅費補助	94.9*1
基礎物理学研究所 援助	45.0	講師旅費	45.0
素粒子論グループ 援助	45.0	ポスター印刷費	5.0
		施設使用料	25.0
		雑費	16.8
		レンタカー代	3.5*2
前年度繰越金	80.2	次年度繰越金	80.0
計	270.2	計	270.2

*1 実際には旅費補助の需要と繰越金額の両方を考慮して金額の調整をおこなう

*2 追加項目

1.3 YONUPA 運営の監督責任者の明確化

文責：立石卓也（北海道大学）

本提案では、YONUPA 運営に関わる次の二つの問題に注目し、それらの解決を目指す。

1.3.1 問題点の紹介

YONUPA 運営の監督者の不在

現在の YONUPA には、運営の監督責任を持つ人間が存在しない。ここでいう運営の監督とは、以下の内容を指す。

- 夏の学校開催のために必要な仕事の全体像を把握する
- 各々の仕事の割り振り先を決定（把握）する
- それらの仕事が正しく行われていることを確認する（全体のタイムスケジュールの管理）
- 滞っている仕事が存在する場合には、担当者への催促や問題解決のための指示を出す

現在の YONUPA にはこの監督責任者が明確に指定されていない。現状ではこれらの仕事の大部分は三者センター校が行っている。それは、三者センター校は外部団体に対する援助申請などを行う都合上、運営の問題に気づきやすいためである。しかし、それは「他の誰も仕事全体の把握を行わない（または、行えない）ので三者センター校で行っている」という理由によるもので、あくまでも三者センター校の本質は「外部団体への協賛の管理、YONUPA の予算の管理、三者共通講義の管理」である。

研究会企画の監督者の不在

現在の YONUPA には、研究会企画の監督者が存在しない。ここでいう研究会企画の監督とは、以下の内容を指す。

- 3 パート合同の研究会としての方針を立てる
（外部団体や内部からの要請・要望を把握した上での方針を立てる）
- 各パート研究会の運営を監督する
- パートには分かれぬ企画（数年前の遠足など）を監督する

三者センター校は外部団体に対して援助申請を行う際に、様々な問題点を指摘される。例えば、「M1 の参加者について、参加者数に対する発表者数の割合を増やす努力はしているか」と問われたことがある。一方で、三者センター校は本来の仕事や、場合によっては YONUPA 運営の監督で手一杯であり、上記の研究会企画の監督までは行えず、各パート準備校に外部団体からの指摘を伝えて研究会企画の検討を要請することしかできない。しかし、「問題解決のための努力をするかどうか」の段階から各パート準備校に委ねられるため、結局解決されない可能性がある。そのため、毎年「例年と同じ」ように動くことになり、研究会としての進歩が見込めなくなっている恐れがある。

1.3.2 解決のための提案

これらの問題を解決するために、三者センター校として次の二つを提案する。

「世話人代表」の設置

YONUPA 運営の監督責任者として「世話人代表」を設置する。（名称は変更してもよい）

「世話人代表」は以下の仕事を行う。

- 上記の「YONUPA 運営の監督」を行う
- 上記の「研究会企画の監督」を行う

ただし、各パートごとの仕事に関しては、次の項目で説明する「各パート責任者」を念頭において監督を行う。

「各パート責任者」の設置

「世話人代表」が直接パート役職校の仕事の詳細までを確認することは、負担が大きく現実的でない。そこで、各パートの仕事を把握・監督する責任者として「各パート責任者」を設置する。(名称は変更してもよい)

「各パート責任者」は以下の仕事を行う。

- 夏の学校開催のために必要な仕事のうち、各パートごとに分かれて行われる仕事の全体像を把握する
- 各パートごとに分かれて行われる仕事の割り振り先を決定（把握）する
- それらの仕事が行われていることを確認する（各パートのタイムスケジュールの管理）
- 滞っている仕事が存在する場合には、担当者への催促や問題解決のための指示を出す
- これらの仕事の監督に関して、「世話人代表」の指示に従い、進捗の報告を要請された場合などにはきちんと対応する

1.3.3 補足

「世話人代表」を担当する役職校について

世話人代表は、その年度の全ての役職校間で相談し一人を選出する。ある役職校の代表が世話人代表を兼任してもよいが、役職校代表者は役職校本来の仕事の監督を行わなければならないため、役職校代表者以外から選ぶのがよいかもしれない。

「各パート責任者」を担当する役職校について

各パート責任者は、各パートごとに役職校間で相談し一人ずつ選出する。ある役職校の代表がパート責任者を兼任してもよいし、代表者以外の人間が担当してもよい。

2 2015 年度三者準備校（東北大学）

2.1 2015 年度夏の学校準備校修正予算案 [’15/8/12 現在]

2015 年度夏の学校準備校（東北大学）の修正予算として以下を申請します。

申請項目	申請額
施設使用料	250,000
ポスター制作費	20,000
コピー代	5,000
文具代	10,000
郵送費	20,000
下見交通費	89,940
レンタカー代	34,836
申請額合計	429,776

施設使用料：当日の会議室やホールの使用料、及びそれに付随する機材の使用料

ポスター制作費：ポスターデザイン依頼代

コピー代：当日配る資料などの印刷費

文具代：ホワイトボードマーカー、イレーザー、電池などの文具代

郵送費：各研究室へのポスター郵送費（封筒代を含む）、会場への荷物郵送費、次年度引き継ぎ時の事務用品郵送費

下見交通費：会場候補地（ホテルたつき）への日帰り下見交通費

レンタカー代：夏の学校運営に必要なレンタカーの料金

2.2 レンタカーの運用

2015 年三者準備校 東北大学

文責：高浦 大雅

2.2.1 概要

今年度、夏の学校に関わる仕事の運営上の必要のため、役職校で共有するレンタカーを全日程（8月17日-22日）借りる。これに関わる経費分を修正予算として計上する。夏の学校全体の円滑な運営が目的であるため、必要経費を参加費から補填する。このことに関し、三者総会で承認を得たい。

2.2.2 経費の試算

トヨタレンタリース愛知 蒲郡店にて軽自動車 1 台借りる契約

- 事故時の補償について：免責補償 1,080 円/日
- 利用期間：夏の学校初日 8 月 17 日 (月) 昼 12 時から最終日 8 月 22 日 (土) 昼 12 時まで
- 推定走行距離：蒲郡駅-ホテルたつき間往復距離=21.8km×10 往復 (想定) =218km
- ガソリン料金：143.1 円/L (愛知県 2015 年 7 月 13 日現在、税込価格)

初日 24 時間=6,480 円

二日目以降 5,400 円 ×4 日=21,600 円

免責補償料 ×5 日間=5,400 円

ガソリン代：(ガソリン料金 143.1 円/L) ×(推定走行距離 218km)/(燃費 23km/L)=1,356 円

以上合計 34,836 円 (ガソリン代 (1,356 円) は推定)

2.2.3 レンタカーの必要性

大学院生間や講師の方々との交流は夏の学校の目的の一つである。このことから、講師を囲む会や懇親会が毎晩催される。この運営をなるべく安く済ませるために、役職校が酒・つまみ類を購入し、ホテルに持ち込むという形で行われている。この際、近辺の店の分布や、運ぶべき量、所要時間等を鑑みると車で買い出しは妥当な手段の一つである。

また、講師の送迎は役職校の仕事であり、これにもレンタカーを用いることができる。他にも、三者準備校は全体の運営の責任の一部を担っており不測の事態に対する備え、及び当日の運営を円滑に遂行するために、レンタカーを用意することは有用であると考え。

2.2.4 利点

過去には個人の車の利用がされていたことがあるが、これではガソリン代等が自己負担になってしまう。運営を担当する大学が、必要経費まで自己負担するのは良い仕組みではないと考える。そのため、必要経費を夏の学校の参加者から均等に徴収できるよう改善することが望まれる。

レンタカーを使用する場合、まず利用代金（契約料金及びガソリン代）が明確になる。そのため資金運用の透明性も増し、参加費からの均等な徴収が公正にできることが一つの利点である。

また、車を運転する必要がある役職校は複数あるが、全員が開催地に車を用意することは難しく、また負担も大きくなる。レンタカーを一台借り、役職校で共有すれば全体の負担軽減にも繋がる。また、車を要する役職校が他の個人の車を借りた場合、事故時に保険が効かない恐れがある。レンタカーであれば、運転者登録を済ませた人全員に保険が適用され、事故時のリスクの軽減ができる。

3 2015 年度三者事務局校（神戸大学）

3.1 三者役職校選定（2014 年度三者事務局校：首都大学東京）

未定であった 2017 年度の役職校について、以下のように選定された。

三者準備校：東京大学（駒場）・東京工業大学三者センター校：名古屋大学

3.2 三者役職校選定（2015 年度三者事務局校：神戸大学）

2018 年度三者センター校・準備校及び 2017 年度三者事務局校・名簿校の選定は 2015 年度三者事務局校（神戸大学）が行います。本来なら本総会で報告するべきところですが、現在検討・依頼を行っている最中です。これら 4 つの役職校については、今後決定次第 YONUPA-ML 上で承認を取らせて頂きます。

3.3 ローテーション校の新しい選定方法

文責：下井絵里（神戸大学）

3.3.1 概要

2014 年度春の三者総会にて、三者センター校・準備校の選定方法を改定することが検討された。引き続き各研究室在籍者人数アンケート（2015.03.21 時点）を元に、新しい選定方法の具体案を提出する。2016 年度三者事務局校が、三者センター校・準備校をする際からの適用を予定している。

3.3.2 従来の三者役職校の選定方法

ローテーションに参加している大学のうち、数年ごとの持ち回りで選定する。厳密にローテーションは決まっておらず、依頼の段階で各研究室の状況を考慮し順番が変更することも十分にあり得る。（資料参照）

3.3.3 新しい各役職校選定方法案

三者センター校・準備校の選定が完了した後、三者事務局校、名簿校と各パート役職校を選定する。この際の各役職校間の連絡は、後述する web ページと sansha-ctr を通じて行う。

三者センター校・準備校

1. これまで少人数などといった理由でローテーションに加わっていなかった研究室を対象に、夏の学校に参加する意思があるならば、ローテーションに加わってもらう。
2. 約 20 人を目処に、近隣の大学でグループを作る。
3. 従来と同様に、一つの大学に役職校の依頼を行う。
4. 依頼された大学に承諾を得た場合、その大学は役職校としての責任を負い必要に応じて同グループの協力を仰ぐ。

三者事務局校・名簿校

三者事務局校・名簿校は少人数で担うことができるため、従来同様選定する。

各パート役職校

三者役職校に該当する大学が所属するグループを避けて、選定する。

グループ分け（7月上旬時点）

- 北海道大学
- 東北大学、山形大学
- 東京大学
- 北里大学、慶應義塾大学、埼玉工業大学、首都大学東京、筑波大学、東京工業大学、早稲田大学
- 名古屋大学
- 新潟大学
- 金沢大学、富山大学
- 京都大学、奈良女子大学、立命館大学
- 大阪大学、大阪市立大学、岡山大学、高知大学、神戸大学、立教大学
- 九州大学、沖縄科学技術大学院大学

3.3.4 注意点

- 特別な事情がある場合を除き、同じグループに属する大学同士が三者センター校・準備校の双方に該当してはならない。
- 三者事務局校・名簿校については、他の役職校が該当しているグループ以外に属する大学から選定するのが望ましい。
- やむおえない事情がある場合のみ、三者センター校・準備校と各パート役職校を同一のグループから選定することができる。
- 新しい選定方法によるグループ制は、三者センター校・準備校の引き継ぎと運営を円滑に行うために発案されたが、他の役職校も必要に応じ同グループの協力を仰ぐことができるとする。
- 三者事務局校は春の YONUPA-ML 一斉更新の後、次年度に適用されるグループの見直しを行い、著しく人数の減るグループが生じないように努める。

3.4 資料

過去の役職ローテーション

	事務局	センター	準備校	名簿校	ML・HP 管理校
1992 年度	？	？	新潟大・九大	-	-
1993 年度	東北大	筑波大	金沢大	-	-
1994 年度	東工大	東大	大阪大	-	-
1995 年度	北大	九大	京大	-	-
1996 年度	広島大	新潟大	名大	-	-
1997 年度	都立大	金沢大	筑波大	神戸大・広島大	-
1998 年度	大阪大	東北大	東大	京大	-
1999 年度	新潟大	北大	東工大・九大	名大	-
2000 年度	筑波大	都立大	広島大	金沢大	-
2001 年度	東大	阪大	東北大	大阪市立大	茨城大
2002 年度	九大	京大	名大	千葉大	神戸大
2003 年度	新潟大	筑波大	北大・東京都立大	早稲田大	広島大
2004 年度	東北大	東大	金沢大	お茶の水女子大	大阪市立大
2005 年度	名大	東工大	大阪大	茨城大	千葉大
2006 年度	神戸大	九大	京大	広島大	早稲田大
2007 年度	金沢大	北大	新潟大	筑波大	-
2008 年度	総研大	名古屋大	東大	千葉大	-
2009 年度	大阪大	金沢大	筑波・東工大	大阪市立大	-
2010 年度	北大	東北大	首都大	お茶大	-
2011 年度	神戸大	京大	九大	広島大	-
2012 年度	東工大	総研大	名古屋大	早稲田大	-
2013 年度	新潟大	東大	大阪大	大阪市立大	-
2014 年度	首都大	筑波大	金沢大	お茶大	-
2015 年度	神戸大	北大	東北大	広島	-
2016 年度	総研大	九州	京都	早稲田大	-
2017 年度	！	名古屋大	東大（駒場）・東工大	！	-
2018 年度		！	！		-

大学別役職校担当履歴

北海道	2015 セ	2010 事	2007 セ	2003 準	1999 セ	1995 事	
東北	2015 準	2010 セ	2004 事	2001 準	1998 セ	1993 事	1991 準
筑波	2014 セ	2009 準	2005 名	2003 セ	2000 事	1997 準	1993 セ
総研	2016 事	2012 セ	2008 事				
東京	2013 セ	2008 準	2004 セ	2001 事	1998 準	1994 セ	
東京工業	2012 事	2009 準	2005 セ	1999 準	1994 事		
首都(都立)	2014 事	2010 準	2003 準	2000 セ	1997 事		
新潟	2013 事	2007 準	2003 事	1999 事	1996 セ	1992 準	
金沢	2014 準	2009 セ	2007 事	2004 準	2000 名	1997 セ	1993 準
名古屋	2012 準	2008 セ	2005 事	2002 準	1999 名	1996 準	
京都	2016 準	2011 セ	2006 準	2002 セ	1998 名	1995 準	
大阪	2013 準	2009 事	2005 準	2001 セ	1998 事	1994 準	
神戸	2015 事	2011 事	2006 事	2002 M	1997 名		
広島	2015 名	2011 名	2006 名	2003 M	2000 準	1997 名	1996 事
九州	2016 セ	2011 準	2006 セ	2002 事	1999 準	1995 セ	1992 準
茨城	2005 名	2001 M					
千葉	2008 名	2005 M	2002 名				
お茶女	2014 名	2010 名	2004 名				
早稲田	2016 名	2012 名	2006 M	2003 名			
大阪市立	2013 名	2009 名	2004 M	2001 名			

セ：センター校、準：準備校、事：事務局校、名：名簿校、(M：ML・HP 管理校)

3.5 web ページの設立

3.5.1 概要

三者若手全体で把握しておくべき事項をまとめ、YONUPA-HP 上にリンクを設ける。記載する事項は以下の通り。

1. 三者・パート役職校の組織図と各役職校の仕事内容
2. 歴代の役職校（少なくとも前年度、今年度と来年度の役職校の代表者を明記する）
3. 今後の役職校を担う大学
4. ローテーション校の選定方法

4 2015 年度役職校代表

4.1 夏の学校に関するアンケート実施について

提案者: 2015 年度役職校

文責: 千葉 (北大)

4.1.1 要旨

原子核三者若手夏の学校ではこれまで夏の学校終了後に運営改善のためにアンケートを行ってきた。しかし、夏の学校に参加していない学生の意見を反映できないため、参加者数の減少等の問題に対する改善策をとれていない。そこで夏の学校に参加していない人も対象に含めたアンケートを実施することを提案する。

4.1.2 実施方法

- 添付資料にあるアンケートを素粒子・原子核・高エネルギー分野に関連する研究室のスタッフ宛に郵送する。
- 回答は同封された封筒（切手添付）に入れ、返送してもらう。

4.1.3 実施者/実施時期

2016 年三者準備校が 2015 年中に実施する。

4.1.4 必要経費

YONUPA-ML に登録している 62 の研究室に 10 部ずつ郵送したと仮定して概算。

- 郵送費 (往復): $205 \text{ 円} \times 2 = 510 \text{ 円}$
- 角二封筒 1 枚: 6 円
- 研究室あたり: 516 円

計: $516 \text{ 円} \times 62 = 25,792 \text{ 円}$